

XaCAR GARAGE

The car and others of an editorial department
編集部のクルマ達



SUZUKI SWIFT SPORT

第9回

ZC31S

16,057km 10ヵ月

ライティングチューンはひとまず終了。ライトというライトを全部交換して夜も快適スイスポとなりました。次は質感向上を目指すカスタマイズをしていきたいと思えます。なにせ限定車というライバルもできたことですね。スイスポ乗りの皆さんで「ここは気になる」というのがあればお便りもお待ちしております。



MITSUBISHI LANCER EVOLUTION WAGON GT-A

第5回

CT9W

25,401km 6ヵ月

デトロイトショーで、第4世代ランエボの最終試作形であるプロトタイプ-Xが発表となりました。これにて名実ともに第3世代エボも終焉を迎えますが「歴代エボ中唯一のワゴンであるエボワゴンは今後も光り輝くぞ!」とばかりにスイスポと同様ライトをチューニングしました。取材などで夜間走行の機会が多い編集部にとって、ライトが明るいことはとても心強い。



HONDA CIVIC 5HB 2.2 i-CTDi Sport(イギリス仕様)

第3回

5,419km 3ヵ月

先月号の筑波サーキットアタックで清水和夫さんに乗っていただいたザッカーシビック号。タイムは1分15秒447とままずだったものの、「若者こそ乗ってもらいたいクルマ」と太鼓判を押していただいた。コストが安い軽油を燃料として、若者やカップルが乗っても見栄えのするデザイン。日本でもきつとヒットすると思うのは清水さんも同感のようだ。

011

前

回、潔癖で神経症的な編集部マサカツのこだわりにより、欧州生まれのボディコーティング「ペルマガード」でピカピカの状態に生まれ変わったザッカーシビック号。やれやれ、とりあえずオートサロンのザッカーブーイスにも展示することだしボディも綺麗になって一件落着、と思いきや大事なことに気がついた。

そう、室内を清潔に保つためのフロアマットがザッカーシビックには装着されていなかったのである。これは、イギリスでシビックを注文したときにフロアマットまで意識が回らず、注文し忘れたことが原因だ。

ボディをいくらびかびかにしたところで、泥やホコリから車内を守るフロアマットがないということは、人間で言えばノーパン状態でゴージャスなコートで羽織っているようなものである。そりゃいくらなんでもないだろう、ということで、急ぎよフロアマット探しが始まった。

だが、日本でただ1台のザッカーシビック号。当然、既製品のフロアマットなどあるわけがない。そこで以前ザッカーが輸入したイギリス仕様のシビック・タイプRのフロアマットを製作していただいた「カロ」にまたしても

HONDA CIVIC 5door 2.2 i-CTDi SPORT(UK version)

第3回

ホンダ・シビック5ドア 2.2i-CTDiスポーツ(イギリス仕様) ようやくフロアマットを注文!

インテリア性抜群のカロをチョイス

問い合わせ/株式会社カロ ☎03-3372-6340 www.karo1980.jp



型紙に使うクラフト紙をフロアの形状に合わせて切ってゆく



しっかりと採寸し、型を取ればこのようにぴったり収まる



お世話になることになった。カロのフロアマットの特徴は機能美を追及しているところにある。カーマットをインテリアの一部として捉え、耐久性や運転時の操作性をも研究しつづけたスペシャルなマットなのである。まさにザッカーシビックにうってつけだ。

カロは長年のマット作りのノウハウから2130車種もの型を保有しているが、欧州シビックのマットを作るのはもちろん初めて。そこで、まずは型紙を取ることにした。

欧州シビックの型紙をトレスしてくれたのは職人の元木宏さん。柔和な表情と時折見せる鋭い視線が魅力的な型取りの名人だ。カロでは現在、型取りの職人は2名在籍しているが、元木さんはそのひとりである。

慣れた手つきでクラフト紙をフロアに敷き、床の凹凸に合わせて紙を切ってゆく。一見簡単な作業に見えるが、クルマのフロアは車種によっても異なり必ずしもフラットではないので、正確に採寸するには経験と器用さが必要となってくる。淡々と作業を進める元木さんだが、熟練した腕がなせる技なのだ。

約1時間の作業で無事に型取りは終

了。カロはフルオーダーメイドマットなので、滑り止めのフットプレートの位置をドライバーの好みによって変更したり、マットの長さを変えたりできるのも特徴なのだ。

ザッカーシビックは不特定多数の人が運転するため、ドライバーひとりの体型に合わせてフットプレートを取り付けることは難しい。よって、誰が運転してもかかかどがグリップするよう、フットプレートを通常より長く張ってもらうことにした。

型を取ったら次はいよいよ、5種類のラインナップから製品を選ぶことになる。だが、ここで問題発生。編集部で一番派手好きのもっちが天然素材の麻を使った発色の良い「シザル」がいいと言え、副編集長のマフは使い勝手が良い実用性に勝る特殊科学繊維で織られた「フラクシー」だ、と主張して譲らない。ついにはマサカツは「いや、正直シンプルな『クエスト』がシビックには一番似合います」と言い出す始末。いつものことながらどうにもこうにもまとまりがない。一体どうなることやら。

というわけで、編集部での話し合いが順調に進めば、次号で完成品を紹介できると思います。乞うご期待! (完)

011

012

013



ザッカーシビックで一番苦労したのがリアの右側のフロア形状。このように出っ張りや段差がある型を取りづらくなる